

一般社団法人 千葉県理学療法士会
在宅医療・介護支援部における
持ち上げないケア普及の取り組み



一般社団法人千葉県理学療法士会

在宅医療・介護支援部

米澤 卓

(職場：介護老人保健施設 船橋うぐいす園)

はじめに

- 千葉県理学療法士会 在宅医療・介護支援部では、2023年度より新たに、理学療法士に対する持ち上げないケア普及の取り組みを開始した。
- 今回、その準備や研修会の様子、参加者の反応、今後の展望などを紹介する。

「持ち上げないケア」

持ち上げない × 抱え上げない × 引きずらない



双方の負担軽減 自立支援 業務改善 ケアの質向上

理学療法士の福祉用具に関する実態

一般的に
福祉用具とは

「障害者等の日常生活上の困難を改善し、

自立を支援し、かつ、社会参加を促進するもの」



99.1%

理学療法士が
関わることで
期待できる効果がある

※

福祉用具の
正しい理解を得る
教育の場があれば
最強！

4.2%

福祉用具に関する
知識・技術を学ぶ
機会が十分にある

※

企画の際に大切にしたこと

- 1 | 千葉県地域リハビリテーション支援体制整備推進事業の
「持ち上げないケア」の推進やその仕組みづくりと連動させること
- 2 | 理学療法士を対象に「持ち上げないケア」に関する学びの場を創出し、
その普及啓発を図ること
- 3 | 部員たちも一緒に「持ち上げないケア」を学ぶという姿勢をもつこと

部が目指す研修会

“専門的な講義”

+

“場”



全然知らない



新しい学び



職場で推進したい



具体的な知識



スキルアップしたい



意見交換

気軽に参加できるプラットフォーム作り

☆オンライン研修



☆カメラOFF



☆意見交換会の設定

第1回持ち上げないケア研修会

「理学療法士が持ち上げないケアを学ぶ意義とは」

一般社団法人 千葉県理学療法士会 会長 田中 康之 氏

2023年8月29日(火) 申込者数：35名 ◎オンラインでの講義形式

移乗ケアで
暮らしを狭小化させない

- 特殊技術にしてはダメ
- 誰もができる
- 難しいことを簡単に
- 手段だけど作業じゃない

これを伝えられるのが暮らしの
復権を考えた専門家の役割

福祉用具は介護用品ではない
リハの手段だ

福祉用具の研究開発及び普及の促進に関する法律（平
5年5月6日）

（目的）第一条

この法律は、心身の機能が低下し日常生活を営むの
に支障のある老人及び心身障害者の自立の促進並び
にこれらの者の介護を行う者の負担の軽減を図るため、福祉用具の研究開発及び普及を促進し、もって
これらの者の福祉の増進に寄与し、あわせて産業技
術の向上に資することを目的とする。

PTが移乗動作を特殊な技術にしていま
せんか？リハの目的を忘れていない？

PTは基本動作を軸に物事を考えられる。
専門性の活用方法を考えてほしい

第2回持ち上げないケア研修会

「持ち上げないケア」で使用する福祉用具の紹介とその活用方法

千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域リハ推進部 太田 直樹 氏、宮澤 拓人 氏

2024年1月11日(木) 申込者数：36名 ◎ライブ中継にて配信



スライディングボードやスライディングシート
の具体的な使用方法から、商品選定のポイントまで網羅



普段より使用されている立場から、対象者へ使用する際の注意点や、家族指導の際のアドバイスなども

参加者の反応 開催後アンケートより

- 第1回では回答者の89%が“業務に活かそう”と回答
- 第2回では回答者の96%が“今後の業務に役立ちそう”と回答

「改めてPTが考える意味合いや役割、存在の意味などを考えさせられました」
「急性期から導入していくことが大切だと感じました」
「PTが自立支援の弊害とならないように気を付けたいと思いました」

「期待以上でした。注意点、気遣い、+αまで大変勉強になりました。出来ているから良いのではなく、対象者さんの目線がかけていたことに気づきました。」
「機器の紹介、使用方法の説明だけでなく、コツや工夫まで話していただいたのでイメージがしやすく参考になりました。」

今後の展望

◎第3回持ち上げないケア研修会を企画中

実際の支援現場における個別事例紹介

～病院の立場から & 在宅の立場から～（仮）

◎来年度、対面での実技研修会を検討中

実際に医療・介護現場で勤務している部員だからできる、
知りたい・伝えたい・一緒に学びたい内容を企画・開催し、
「持ち上げないケア」の普及啓発を図っていきます！